

2022年度の進捗

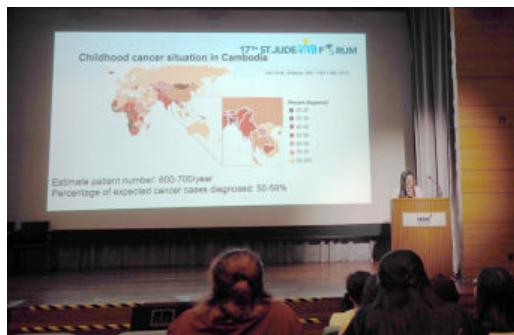
1. 熟練の医療従事者の育成

- 医師・看護師の育成：
 - 医師の来日研修：
 - カンボジア人医師一名が日本の医療機関で5か月間の臨床研修を実施しました。当医師は、小児外科医としてジャパンハートこと医療センターの開業時から勤務しており、今後のカンボジアにおけるジャパンハートの医療活動のけん引役として期待しているスタッフです。
 - 日本での臨床研修では、小児がんに限らず幅広い症例経験を得ました。研修後には、以前に比べてよりリーダーシップをもつて小児外科患者や小児がん患者のマネジメント、治療方針の決定を行えるようになりました。今後は当院の日本人医師の指導の下、執刀医としての手術経験を重ねていきます。



— 医師、看護師の国際がん学会への参加：

- シンガポールで開催されたSt. Jude-VIVA Forum in Pediatric Oncologyへ、ジャパンハートの現地医師1名と看護師2名が参加しました。このフォーラムは、アジアの小児腫瘍専門医が集まり、先進国と発展途上国との間のギャップを埋めるために、ノウハウの共有やネットワーキングを行う場となっています。Nursing Symposiumではジャパンハートの看護師も活動の発表を行いました。自らの活動を自らの言葉で発信し、多くの医療者との交流を通じて、多くの学びと刺激の機会になりました。



- 放射線技師の採用：現地人技師の採用活動を開始しました。カンボジアではSNSで採用情報を調べることが主流のため、SNSを活用した採用活動をメインに、教育機関への声掛けも行っています。カンボジアでは放射線技師を育成する教育機関が限られ、人材も少ないため、採用は容易ではありませんが、次年度も様々な方法で引き続き採用活動を進めています。

2. 農村部の医療アクセスの改善

- 無償巡回診療：ポンネルー地区とその周辺にある地域で（ジャパンハートこども医療センターから車で3時間ほどの地域など）、3回の巡回診療を実施し、143名の地域住民に無償診療を提供しました。診療に来られた患者さんの多くは生活習慣に由来する症状が認められ、糖尿病、高血圧、胃腸炎などの診断や治療薬の処方を行い、地域の医療機関への継続的な受診を促しました。また、子どもの栄養管理に関する知識が不足し、通常よりも体の小さな子どもも認められ、保護者への栄養指導も実施しています。



3. 高度医療設備の拡充

- 新たに外科手術用X線撮影装置（Cアーム）を設置するために、2022年度に手術室の拡充工事を実施しました。X線が室外に漏れださないよう、壁に鉛シートを貼り、ドアも特別なものを設置しました。2023年度にX線撮影装置を導入予定です。



当社が支援するプログラム

		2022年度	状況
1. 熟練の医療従事者の育成	医師の来日研修	1名が研修を完了	on schedule
	医師のカンボジア他院での研修	—	—
	看護師のカンボジア他院での研修	—	—
	国際がん学会への参加	医師1名、 看護師2名が参加	on schedule
	放射線技師の採用	採用活動を開始	—
2. 農村部の医療アクセスの改善	無償巡回診療	3回実施 143名に無償診療を提供	on schedule
3. 高度医療設備の拡充	X線透視室の整備	設備発注を完了 オペ室改修工事完了	on schedule